

ShoJakuKan

書籍館

Vol. 10
2021
Autumn

□特集

進化する同志社大学図書館

今出川校地新図書館建設事業について

所蔵資料紹介

『グーテンベルク 42 行聖書』(復刻版) — 印刷術と聖書 —



□CONTENTS

- 01- コロナ禍で図書館が直面した課題へのアプローチ
- 02- 展示のご案内
- 03- 今出川校地新図書館建設事業について
- 05- 所蔵資料紹介「グーテンベルク 42 行聖書」(復刻版)
- 07- 電子書籍へのアクセス方法
- 09- 図書館講習会・e-learning 紹介
- 11- 同志社大学デジタルコレクションの公開について

コロナ禍で図書館が直面した課題へのアプローチ

2020年度、本学図書館は、2つの大きな課題に直面しました。第一は、今出川校地新図書館建設計画の推進です。そして、第二が、新型コロナウイルス感染症にかかる利用者サービスの維持・対応です。前者については、他大学の動向調査など情報収集とその点検に加えて、将来構想の策定をはじめ長期的な視点にたった議論や意見の擦り合わせ等、時間をかけての粘り強い合意形成の作業が不可欠です。これに対して、後者に関しては、緊急性が要求されるとともに、参考になる先行事例に乏しく、時々の状況をふまえた臨機応変な対応が求められます。

前号で紹介したように、図書館における新型コロナウイルス感染症への対応について 2020年度は、臨時休館(4/13~5/24)、電子書籍サービスの充実、郵送貸出サービスの開始、予約制に基づく入館制限措置、手指消毒と検温の要請といった対応をすすめました。現在は、手指消毒・検温の要請を維持するほか、ソーシャル・ディスタンスに配慮した座席数と配置等、一部の制限を継続しつつ、できるだけ規制の少ない運営に努めています。

ご承知のように、コロナ禍の長期化にともない、社会の対応状況も少しずつ変化してきています。この1年余りの経験を活かして、慎重にとはいえ過度に制限的になるのではなく、冷静な判断をして利用者の利便性をできるだけ妨げない運営をすすめたいと存じます。来館者が安心して利用できる利用環境の保障と、可能な限り学習・研究活動を妨げないサービスの提供をバランスよく実現することが、現在の大きな問題です。

冒頭に申し上げた2つの課題は、一見、対照的ですが、相互に密接にかかわっていることを実感致します。図書館がかけがえのない存在であること、図書館の本質的な役割とは何かということ、柔軟な対応がいかに大切であるかということ、そのために周囲の協力が欠かせないということ、図書館サービスの維持は、直接目に見えない多くの人々の献身に支えられていること等々、2つの課題に取り組む過程で、これらについて学び考える機会を得たように思います。「教育と研究を止めない」ということを胸に留め、引き続き図書館がすべきこと、できることに取り組んで参りたいと存じます。ご支援・ご協力を重ねて宜しくお願い致します。

図書館長 経済学部教授 谷村 智輝

図書館での新型コロナウイルス感染症への対応について

新型コロナウイルス感染症は、依然として予断を許さない状況ですが、利用者の皆さんに安心して利用していただけるよう、図書館ではさまざまな感染症拡大予防策を講じています。



入館ゲート前の検温、手指の消毒



カウンターでの飛沫感染防止対策



閲覧席のパーテーション設置

展示のご案内

今出川図書館

明治の欧文絵本『ちりめん本』 ～同志社大学所蔵の貴重な資料から～

期間:2021年4月1日～2022年3月27日

場所:今出川図書館B1階 展示コーナー

今出川図書館では、特別コレクションとして貴重な資料を所蔵しています。今回は(1)ケーリ文庫、荒木英学文庫⁽²⁾から、ちりめん本の代表的なものである『日本昔噺』シリーズを中心に展示しました。

ちりめん本は、絹織物のちりめんのような加工を施した挿絵入りの欧文の和綴じ本で、明治中期から昭和初期にかけて出版され、海外の人々を魅了しました。



和紙独特の風合い、高度な木版技術を用いて描られた挿絵の色合い、装丁の美しさなどが見どころです。

この機会に是非ご覧ください。

(1)ケーリ文庫

本学教授であったオーティス・ケーリ(Otis Cary, 1921-2006)氏により、1974年に寄贈されたもので、氏の祖父オーティス・ケーリ(Otis Cary, 1851-1932)博士以来三代にわたって収集された、外国人の日本研究とキリスト教伝道史に関する文献が主体となっています。

(2)荒木英学文庫

民間英語学者であった荒木和一(1872-1957)氏の旧蔵書が、1958年に遺族より寄贈されました。広範な分野におよぶ旧蔵書の中から、特に英学関係の資料を抜き出したものが本文庫です。

ラーネッド記念図書館

新島襄ゆかりの地をめぐる旅(仮)

期間:2021年11月15日～2022年3月25日

場所:ラーネッド記念図書館2階 展示室

同志社の創立者の新島襄はアメリカへ渡り、そこで学ぶうちに、「自由」と「良心」に立つ人間を養成するキリスト教に基づく教育を日本で行いたいという夢を抱くようになります。帰国後の1875年に、国内外の多くの人々の協力を得て、京都の地に同志社大学のルーツとなる同志社英学校を設立しました。



アメリカ滞在中に赴いたヨーロッパでの視察や、日本各地を旅した経験は、新島のその後の人生だけでなく、同志社の設立にも深く影響を与えました。今回の企画展示では、大学図書館の蔵書の中から、新島が訪れた欧米諸国をはじめ、新島家の故郷の安中(群馬県)、終焉の地の大磯(神奈川県)、京都などといった国内外のゆかりの場所に関連する書籍を展示します。また、そこで書かれた詩歌や書簡などもあわせて紹介します。

旅がしにくい今、本展示で新島の足跡を辿り、その志に触ることで、世界へのまなざしを新たにしてみませんか。

「支え合う志」をつないで ～障がい学生支援制度発足20周年～

期間:2021年7月1日～2021年10月31日

場所:ラーネッド記念図書館2階 展示室



10月末まで、本学の障がい学生支援制度20年の歴史とその前史を振り返る展示を行っています。
是非ご覧ください。



進化する同志社大学図書館 今出川校地新図書館建設事業について

書籍館(現:有終館)

図書館長からご挨拶

現在の今出川図書館が竣工したのは、1973年12月です。以後、約半世紀にわたり、本学にかかわるすべての者にとっての知の泉として、活用されてきました。一方、施設・設備の老朽化等、課題も抱えていました。そこで、2019年7月に今出川校地新図書館建設構想の基本方針が全学的に打ち出され、2025年度内に新図書館の竣工を目指すことが示されました。

新図書館建設という大きな事業をすすめるにあたり、2020年度は、新図書館の「基本コンセプト」を検討しました。その結果基本理念として、(1)学習・研究の入口となり、探求の世界に誘う、(2)学習・研究に没頭する場となり、探求を支える、(3)知の入手拠点となり、知の生産に貢献し、知の集積を後世に伝える、を掲げることとしました。また、本学の理念・ビジョンや周辺環境との調和をはかるとともに、時代の変化や利用者のニーズに柔軟に対応可能な図書館を実現することを基本方針としています。以上のような基本理念や方向性は、奇をてらった特徴的な機能整備よりも、高レベルな基本機能の提供こそが利用者に求められている、との認識に基づいています。

つぎに、2020年11月2日～11月14日にかけて新図書館建設計画に関する「アンケート調査」と「館内利用実態調査」を実施しました。これらの調査にご協力をいただいた皆様に、厚く御礼を申し上げます。上記アンケート調査では、図書館利用に関する基礎的データ、備えるべき機能についての具体的なヒント等を豊富に収集することができました。一方、図書館の取り壊しを惜しむ、たくさんの声が寄せられました。また、コロナ禍による閉塞状況において、新たな建造物の建築に批判的な意見もありました。改めてご理解頂きたい点は、今出川校地図書館建設の背景です。上述した①施設・設備の老朽化に加えて、②バリアフリー・ジェンダーフリー等への対応、③耐震基準の充足、④資料収蔵力の増強が課題であり、これらはいずれも迅速な対応が求められるものです。今後も、利用者の皆様から建設を支援頂けるよう、情報の開示・共有に努めて参りたいと存じます。

図書館では、現在、建設工事期間中の図書館機能維持をどのように実現していくか、具体的な検討に着手しています。資料の配置やデリバリーのシステム等、検討すべき課題は数多くありますが、新図書館竣工までの利用者の利便性を低下させないよう、着実に準備して参ります。それによって、新図書館建設についての利用者の理解もいっそう得られるに違いありません。

さて、2021年秋に、「今出川校地新図書館建設事業委員会」が組織され、全学的な議論も開始されます。また、図書館内では、6月以降、毎週、新図書館建設に向けたミーティングを開催して、基本コンセプトの具体化に係る議論を積み重ねています。さらに、建設期間中の利便性を維持・向上させる施策のひとつとして電子書籍点数の充実をはかるほか、電子サービスを梃子とした図書館サービスの向上について検討を進めているところです。こうした図書館職員の取り組みを頼もしく思います。

ご承知のように、新図書館建設は、本学創立150周年記念事業に位置づけられています。つぎの50年、100年の供用に耐え、利用者に愛される図書館の建設に努めて参ります。ご支援・ご協力をどうぞ宜しくお願い致します。

図書館長 経済学部教授 谷村 智輝



本学図書館の歴史

1875(明治8)年、新島襄によって現在の学校法人同志社の前身である同志社英学校が創立されました。その翌年、新島は教員生徒に自らの蔵書を書籍縦覧室で公開し貸出を認めました。同志社の図書館はここに端を発し、その後書籍館(現:有終館)、啓明館という2代の図書館を経て、現在では今出川キャンパスと京田辺キャンパスの両キャンパスに図書館があります。今出川キャンパスでは「図書館」(1973年開館)、京田辺キャンパスでは同志社英学校時代から50余年教鞭をとったD.W.ラーネッドにちなみ「ラーネッド記念図書館」(1986年開館)と名付けられています。



昭和初期の図書館(現:啓明館)



現:今出川校地図書館

現図書館の課題と建設の必要性

今出川校地図書館は、1973年12月の竣工から50年近く経過しており、施設・設備の老朽化が進んでいます。文部科学省では、学校施設の安全確保の観点から私立学校の耐震補強や耐震改修を推進しており、今出川校地図書館においても、耐震基準を満たす新たな建物に建設することを検討してきました。

また、竣工当時は斬新でユニークなデザインが評価され建築業協会賞を受けたものの、バリアフリーやジェンダーフリー等に対応できていない問題があります。さらに、書架が逼迫してきており、数年のうちに新たな資料を収藏できなくなるという厳しい状況に直面しています。

以上のような理由から、利用者の皆さん的安全性や利便性を高めるため、建設事業を実施する運びとなりました。



現図書館内。貴重資料を多数所蔵し、荘厳さと落ち着きをあわせ持つ本館は長年多くの人々に愛されてきました。

建設方針と仮運用体制

新図書館は、ユニバーサルデザインに配慮しつつ、教育研究に関する学術情報の体系的な収集、蓄積、提供という基本的機能を維持することに加え、時代の変化に即した対応ができるサービス・建築構造の設計を目指します。現時点では、2023年秋から2025年度にかけて解体・建設作業が実施される予定です。

新図書館建設中は、寧靜館1階と地下階に図書館機能を維持します。図書の貸出・返却やレファレンスサービス等の基本的なサービスや、閲覧室・雑誌室・参考図書室といった各種スペースを提供し、建設中も利用者の利便性を保ちます。

更に、博遠館地下階にも書庫を設け、今出川キャンパス内に可能な限り資料を収藏し、利用に供します。

キャンパス内に収藏しきれない資料については、学外倉庫業者を活用し資料配送システムにて対応することで、資料へのアクセスを確保します。



新図書館建設は、同志社大学創立150周年記念事業の一環で、「同志社大学 2025 ALL DOSHISHA 募金」の対象事業にも掲げられており、多くの方々にご支援をいただきながら進めています。

最後に、2020年11月に実施した「新今出川図書館計画に向けたアンケート調査」について、ご協力いただき感謝申し上げます。いただいた貴重なご意見を真摯に受け止め、新図書館がより良いものになるよう検討していきます。

これから図書館に是非ご注目ください。

『グーテンベルク42行聖書』(復刻版)

— 印刷術と聖書 —



『グーテンベルク42行聖書』は、活版印刷の発明者とされるヨハン・グーテンベルク(1400頃-1468)の手による最初の印刷聖書である。

印刷術が発明されるまで、聖書は(他の書物と同様に)手書きによる写本として製作された。中世においては修道院がその活動を担い、羊皮紙の加工から筆写、修正、そして装飾や製本に至るまで、修道士たちが作業に携わった。この写本製作は、教育や労働の観点から修道生活の基本と位置づけられ、作業は細かく規定され、ノルマが課され、監督者の下で分業による作業が進められた。大変な時間と労力を費やす写本製作は、活版印刷の発明により、効率的な印刷術に取って代わられ、書籍文化の歴史に大きな変革がもたらされることになった。その印刷術による最初の大型本が、この『グーテンベルク42行聖書』である。

『グーテンベルク42行聖書』は、ドイツのマインツにあるグーテンベルクの印刷所で、彼と約20人の職人たちにより、1452年から1456年頃にかけて製作されたとされている。2巻、1,282頁から成り、各頁は2段組で、その大部分が42行で構成されている(『42行聖書』の名称はここに由来する)。290の活字が用いられ、飾り文字や色付きの文字もある。挿絵も用いられ、各巻最初の頁には金をちりばめた色鮮やかな装飾が施されている(右頁図を参照)。これらの装飾や挿絵は、印刷のあと挿絵画家が手描きで加えたものである。この装丁により、『グーテンベルク42行聖書』は、世界のもっとも美しい本の一つとして評価されている。

『グーテンベルク42行聖書』のこれらの装丁は、基本的にそれまでの手写本の慣習に倣ったものである。文字の表記法も伝統的なやり方を引き継ぎ、またタイトル頁がなく、頁番号の記載もない。聖書のテキストも当時の慣例に従い、ウルガタ訳(ラテン語)が用いられ、当時、流布していた写本(パリ校訂版)に拠っていることが明らかにされている。

『グーテンベルク42行聖書』は約180部出版され、そのうち約150部が紙に、残りの約30部は高価な羊皮紙に印刷された。今日、確認されているのは49部である。本図書館が所蔵するのは、その複製本であり、表紙はフルダのヘッセン州立図書館所蔵の原本、本文はベルリン国立プロイセン文化財団図書館所蔵の原本をもとに製作されたものである(本誌の表紙を参照)。活版印刷による初期(1500年以前)の書物は「揺籃期本」(インキュナブラ)と呼ばれ、ヨーロッパ各国の図書館で、貴重本として収集されている。



村上 みか 神学部教授



研究分野／歴史神学・宗教改革史

著 書／

「一冊でわかるキリスト教史－古代から現代まで－」第3版

(共著、日本キリスト教団出版局、2020年)

「ヨーロッパ宗教改革の連携と断絶」(共著、教文館、2009年)

Johannes Gutenbergs zweiundvierzigzeilige Bibel :
Faksimile-Ausgabe nach dem Exemplar
der Staatsbibliothek Preußischer Kulturbesitz Berlin

配架場所	巻 次	請求記号
今出川図書館 貴重図書室	[Bd.1]	191.015 G2-2 1
今出川図書館 貴重図書室	[Bd.2]	191.015 G2-2 2



同一テキストを量産できる活版印刷は、マインツからヨーロッパ各地へと急速に拡大していった。多くの資金と市場を要する印刷所は、大きな商業都市に設立され、とりわけイタリアのベネチアは、その量と質においてドイツを凌ぐ優れた印刷業を発展させた。1500年までに94のラテン語聖書が出版されたが、そのほとんどが『グーテンベルク42行聖書』をもとに製作されたものであった。このようにして印刷術は、教会や学問の場に限られていた聖書を広く普及させるとともに、そのテキストの統一化に新しい道を開いたのである。

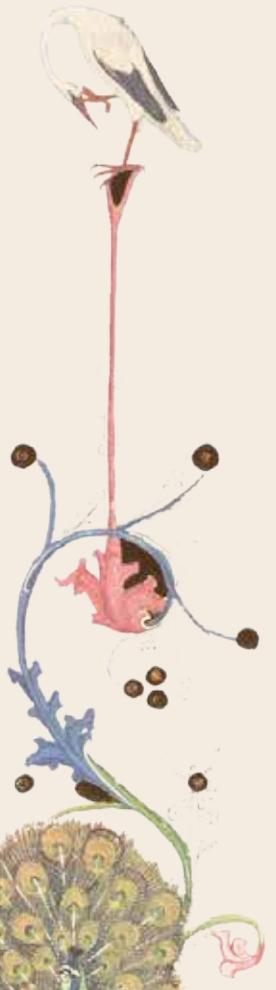
もっとも、これらのラテン語聖書は、16世紀に入ると、その意味を減じることになる。人文主義者たちが古典を原典で読むことを唱え、1516年にはバーゼルのフローベン印刷所から、エラスムスの手による『ギリシア語新約聖書』が出版された。さらに宗教改革者ルターによって『ドイツ語聖書』が出来た（新約：1522年、新旧約：1534年）、ラテン語の知識のない多くの人々にも、聖書が身近で理解可能なものとなった。『ドイツ語聖書』は多くの版を重ね、膨大な数の聖書が出版された。その背景には、聖書を重視する宗教改革の神学があったことも、忘れてはならないだろう。

一方、印刷術は宗教改革のメディアとして利用され、それにより宗教改革の成立と拡大が可能になったことを近年の研究は示している。「95箇条の提題」をはじめ、宗教改革の考えがピラやパンフレットの形で広く、早く、正確にヨーロッパ中に伝えられた。この宗教改革の進展とともに、印刷所の数はさらに増加し、印刷術のあり方も変化していった。写本を模範とする慣習が失われ、タイトル頁が最初に入れられ、活字の規格化が進められた。古典やラテン語の書物だけでなく、同時代人の著者による、より分かりやすい書物も安価で入手できるようになった。もっとも当時の識字率は1割以下とされており、多くの人々は口頭で語られるのを聞いて、諸文書や聖書の言葉を理解したと考えられている。

本学神学部の貴重図書室には、1585年にフランクフルトで出版されたルター訳『ドイツ語聖書』（原本）が収められている。ページの欠損や虫食いがあるものの、紙質や装丁から当時の書物の様子を窺い知ることができる。『グーテンベルク42行聖書』とあわせて、書籍文化の歴史に触れていただければと思う。



図：『グーテンベルク42行聖書』第2巻 最初の頁



電子書籍へのアクセスが

簡単になりました！



本学が発行するユーザ ID とパスワードの認証のみで利用可能！

※詳細は右ページへ→

いつでもどこでも

貸出・返却不要で、
インターネットから
24時間アクセス可能！
※メンテナンス時は除く

試し読み

未購入タイトルでも、
一定時間内の全文試し
読みが可能！
※一部対象外

購入リクエスト

学習用・研究用書籍の
購入リクエストが可能！
※ご希望に添えない場
合あり

レポート・
論文の書き方

英語学習

就職活動



様々な電子書籍を
揃えています！



簡単アクセス方法



【サービス1 : KinoDen】

- 図書館HP内「データベース検索ポータル」に掲載している『KinoDen』のリンクからアクセスしてください。



<https://kinoden.kinokuniya.co.jp/doshisha/>

- 「学認でサインイン」をクリック



1

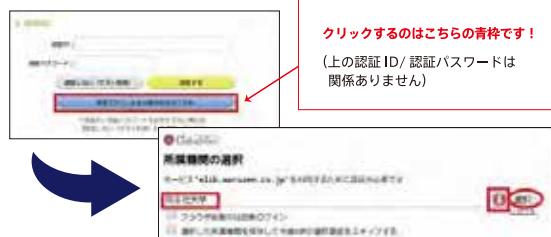
【サービス2 : Maruzen eBook Library】

- 図書館HP内「データベース検索ポータル」に掲載している『Maruzen eBook Library』のリンクからアクセスしてください。



<https://elib.maruzen.co.jp/elib/html/BookList>

- 「学認アカウントをお持ちの方はこちら」をクリック
⇒ 「同志社大学」を入力 or 選択 ⇒ 「選択」をクリック



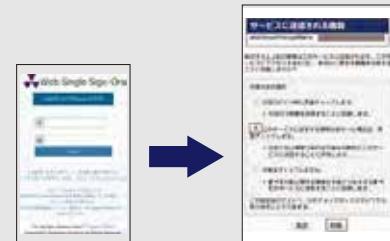
2

- 本学が発行するユーザIDとパスワードを入力してログインする ⇒ 「同意」をクリック



3

- 本学が発行するユーザIDとパスワードを入力してログインする ⇒ 「同意」をクリック



4

- KinoDenのトップページへ移る
⇒ 早速検索！



- Maruzen eBook Libraryのトップページへ移る
⇒ 早速検索！



自宅で図書館サービスを使おう！
～電子資料のすすめ～



電子資料の
活用術
も公開中

レポート作成に電子資料を
活用してみよう！



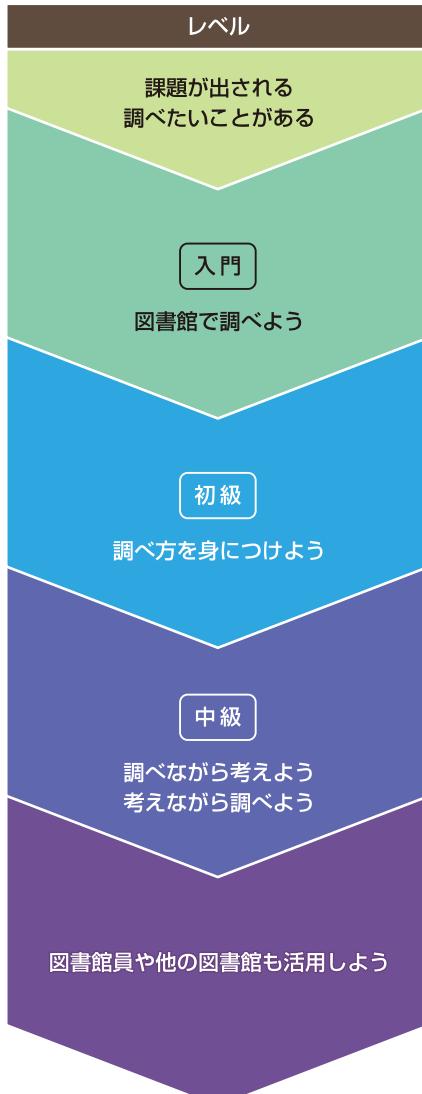
図書館講習会

図書館を活用し、
みなさんの大学での学修に役立てられるように
レベル・目的に合わせた講習会を多数企画しています。
ぜひご活用ください。

詳しくは、図書館ホームページ [講習会のお知らせ] をご確認ください。
順次、最新情報を掲載しています。

<https://library.doshisha.ac.jp/skillup/index.html>

その他、お申込みやお問い合わせは、
今出川図書館またはラーネッド記念図書館の
レファレンスカウンターまで。



情報をまとめて自分の意見を表現しよう
論文・レポート作成・プレゼンテーション準備

講習会ラインナップ

まずはここから！図書や雑誌記事・論文を探す！

■ 大学生の図書館活用術

各種データベースを使ってもっと広く資料を集める！

効率的に情報・資料収集！

■ データベースの選び方

レポート・卒業論文の作法から、資料収集のノウハウまで！

レポート・論文作成に役立つ！

■ テーマ設定のための資料探索

レポート・プレゼンの説得力アップ！

■ 裏付け情報の探し方

※京田辺校地実施

■ 裏付け情報・統計データの収集

※今出川校地実施

その他、様々な内容・レベルの講習会を実施！

■ データベース講習会

- JapanKnowledge Lib
- Nexis Uni
- Scopus
- RefWorks

…など

■ プロが教える！シリーズ

図書館資料の活用法や、大学での学修の仕方について、各分野のプロフェッショナルの方を招き、プロならではの視点から、知識やスキル等についてお話しいただきます。

気になるテーマを見つけたら、ぜひご参加ください！

図書館講習会 e-learning

図書館ホームページ [図書館講習会 e-learning] では講習会に関連した内容をWeb上で学ぶことができます。講習会に参加できなかったときや、内容を復習したいときなどにご活用ください。



※Webシングルサインオンサービスからご利用ください。
※モバイル端末からもご利用いただけます。

図書館講習会 e-learning トップページ



コンテンツメニュー

e-learning ラインナップ

- 今出川図書館バーチャルツアー
- 大学生のための図書館ことはじめ
- 図書館を使いこなそう～入門編～

■ 大学生のための図書館ことはじめ

図書館でできること

在庫見る + 買いたい本をくる
専門分野を読める + 鮮たな気付きを得る

●何かについて調べたりするとき
(伝統できる情報を得たいとき)

または、何かについて調べたりしたときに、伝統できる情報を得て満足感を得たいとき
(自分なりに得た時に自信を持ちたいとき)

■ 各種資料の探し方 ～基本編～

- ・百科事典の活用法
- ・図書の探し方
- ・雑誌記事・論文の探し方
- ・新聞記事の探し方(日本語の新聞)
- ・新聞記事の探し方(英語の新聞)

■ 各種資料の探し方 ～基本編～ 図書の探し方

図書の並び方



または、資料が整理しきつた「レポート・論文の並び方」は「斜名式」といって
並び順がつづりられており、これは「論文作成」についてのデータを表示しています。

■ 各種資料の探し方 ～応用編～ レポート・卒論へのアプローチ

- ・レポート・卒論へのアプローチ
- ・洋文献へのアプローチ
- ・判例・法令情報へのアプローチ
- ・自然科学文献へのアプローチ～医学系・理工系～

第5段階 アイデアを具体化、展開する

第1段階 資料集め

第2段階 資料を読み込む

第3段階 考えることをやめる

第4段階 ひらめいた！

第5段階 同時に使うようアイデアを具体化し、展開する

「ワクワクメールがお読みの本を」について、資料の探し方を理解するための
壁紙データなどの資料を題に収集し、「今後の展開」も同時にいかがわう考え
てまとめてます。

その他お役立ちコンテンツ

■ 学生生活に役立つ情報の集め方

- ・就職活動に役立つデータベース活用法
- ・語学学習に役立つ図書館サービス

■ 情報検索マニュアル集

- ・役立つ検索テクニック
- ・役立つ情報検索ツール



同志社大学デジタルコレクション の公開について

同志社大学貴重書デジタルアーカイブを
同志社大学デジタルコレクションとして、リニューアル公開いたしました。

公開日 2021年7月1日（木）

URL <https://dgcl.doshisha.ac.jp/digital/collections/>



同志社大学デジタルコレクションとは

同志社大学が所蔵する貴重資料等を公開するデジタルアーカイブです。

本学が所蔵する史資料の中から、同志社に縁の深い山本覚馬や徳富蘇峰に関連した文書や書簡、

江戸時代の後期に記された漂流記などの日本史関係史料、外国人による日本研究資料などを公開しています。

日本古典籍の古写本や古活字本、絵巻物、かるた、高札など、多彩な資料も掲載しています。

国内外に向けて広くコンテンツを公開することで、本学が所蔵する貴重資料の利活用を促進し、
学術情報基盤としての役割を果たしていきます。

特徴



①IIIF 対応
画像を公開し共有するための国際的な規格である IIIF (International Image Interoperability Framework) に対応し、
高解像度の画像をスムーズに閲覧できるビューワーを備えています。

②システム連携

本学の学術情報検索システムである DOORS と相互リンクを設定しています。

冊子体の所蔵情報とデジタル画像の双方を利用者にご案内することができます。

また、学術リポジトリにもメタデータを掲載することで、IRDB 等の学術データベースに収集されます。

本冊子『書籍館』名前の由来

『書籍館』とは、図書館の旧称である。1872年に文部省が東京の湯島聖堂内に創設した図書館(現在の国立国会図書館の前身の一つ)の名であり、明治初期には、日本の複数の図書館が『書籍館』と称された。

同志社大学図書館の起源としては、1876年に校舎の1階に設けられた書籍縦欄室(図書室)が最初であり、その後1885年に初代図書館『書籍館』(現有終館)の定礎式が行われた。校祖新島は、教育方針の3要素の1つに "Well selected library" を挙げており、自身の蔵書も教員生徒等に公開して、教育に情熱を注いだ。この図書館報の名称『書籍館』は、図書館報の発行にあたり、新島がいた原点に戻って、同志社大学図書館を再考したいという思いから名付けたものである。



同志社大学 図書館報 vol.10
[書籍館] 2021年10月1日発行

編集・発行:同志社大学図書館
〒602-8580
京都市上京区今出川通烏丸東入
Tel:075-251-3960
E-mail:ji-gakjo@mail.doshisha.ac.jp
<https://library.doshisha.ac.jp/>

